

令和7年度 函館市医療・介護連携多職種研修会～介護関係者向け～
アンケート集計結果(令和7年8月21日開催分)

n=42 (回収率 96.0 %)

研修参加人数:44名

1. 所属エリアをお聞かせください。

・函館市	33	(78.6%)
・北斗市	3	(7.1%)
・七飯町	6	(14.3%)
計	42	(100.0%)

2. 所属機関をお聞かせください。

・医療機関	6	(14.3%)
・介護機関	33	(78.6%)
・その他	3	(7.1%)
計	42	(100.0%)

3. 現在、従事されている職種をお聞かせください。

・医師	0	(0.0%)
・歯科医師	0	(0.0%)
・薬剤師	1	(2.4%)
・保健師	2	(4.8%)
・看護師	1	(2.4%)
・ケアマネジャー	20	(47.6%)
・相談員	5	(11.9%)
・介護職員	8	(19.0%)
・歯科衛生士	0	(0.0%)
・栄養士	0	(0.0%)
・リハビリスタッフ	1	(2.4%)
・柔道整復師	0	(0.0%)
・マッサージ師・鍼灸師	0	(0.0%)
・福祉用具関連	0	(0.0%)
・事務員	2	(4.8%)
・その他(社会福祉士)	2	(4.8%)
計	42	(100.0%)

4. 今回のテーマ(内容)はいかがでしたか？

・よかった	42	(100.0%)
・どちらともいえない	0	(0.0%)
・よくなかった	0	(0.0%)
・無回答	0	(0.0%)
計	42	(100.0%)

【ご意見等】

【医療機関】

<薬剤師>

- ・知らないことが多く、わかりやすい説明で非常に勉強になりました。ありがとうございました。

<相談員>

- ・FIM等日常あたり前に使われている言葉の意味を説明いただき改めて整理できました。患者さんや家族が考える間もなく次のことを決めなければならなかったとすることができる限りないように、しっかり寄り添えているか振り返りながらやっていきたいと思います。経験上のお話もあり勉強になりました。ありがとうございました。
- ・今まで回復期からの受け皿として、施設入所のご相談を多くいただいています。そこに至るまでのジレンマだったり、抱えている悩みを今回お聞きすることができて、とても勉強になりました。なかなか回復期のことを日頃関わることがないので良かったです。
- ・他院の回復期の状況がわかりました。参考になりました。

<事務員>

- ・自分も回復期のMSWだったため、共感することが多かった。診療所、介護施設を運営する立場から色々な形で協力関係を築いていきたい。

【介護事業所】

<看護師>

- ・今後も思いやりのある連携を続けてください。頑張ってください。

<ケアマネジャー>

- ・回復期リハ病棟って何となくわかってはいたけど、今回詳しく知ることができました。回復期リハ病棟と地域包括ケア病棟の違いがわからなくて、ずっとモヤモヤしていたのですが、今日わかって本当にすっきりしました。レスパイト入院のこともわかって良かったです。
- ・入院期間のしほりがあるなか、患者様やご家族の思いに寄り添った対応をしてくださり、ありがたいと思いつながら話を聞かせていただきました。
- ・回復期リハ病棟について詳しく知ることができた。病気によって期限があるのは、ぼんやりと知っていたが具体的に知ることができた。
- ・リハビリも数値化が行われていることにびっくりしました。在宅での生活のことを考えてもらっていることを知り、とても助かります。
- ・患者様、利用者様お一人を支えるチームが一つになり、快方に向けている様子を聞いたことが良かった。
- ・大変わかりやすい説明でした。何となくわかってはいた部分ですが、しっかり理解できました。
- ・回復期リハビリ病棟と包括ケア病棟の違いを具体的に聞いて良かったです。
- ・地域包括ケア病棟と回復期リハビリ病棟の違いがわかり、良かったです。
- ・病院運営において、入院期間が重要だということが理解できました。
- ・PTも退院支援に携わっていて斬新なアイデアに感じました。
- ・FIMについて等。仕組みのイメージができた。
- ・今後も他の病院の相談員さんの話を聞きたい。
- ・回復期病棟について理解できました。

<相談員>

- ・日頃、病院からの受け入れを行っている中で、大変参考になるお話でした。
- ・病院の仕組みを知れてよかった。

<介護職員>

- ・ペットとの面会が高橋病院でできるのは知らなかった。今回のテーマについて知らなかったことが学べてよかった。
- ・入院からリハビリまでの流れやリハビリ後から退院、転院について詳しく知ることができた。
- ・退院までの流れが良くわかりました。

5. 今後、どのような内容の研修会を希望されますか？

【具体的な内容等】

【医療機関】

<リハビリスタッフ>

- ・ 特養やサ高住のスタッフが病院側に求める情報は何かあるのか。

<相談員>

- ・ 多職種連携あるある(NsとMSW, POS(問題志向型システム)とNsなど)と工夫。
- ・ 病院でのACPの取り組み。

【介護事業所】

<保健師>

- ・ 医療と介護が共通認識をもてるよう、同様の研修に参加していきたいです。

<ケアマネジャー>

- ・ 事例を基にした内容、回復期として在宅復帰を目指すのが役割ですが、逆に家族の状況、患者本人の状況をみて、在宅復帰が叶わなかった事例も挙げていただきたいと思います。
- ・ ケアラー研修、人生会議(研修でやったことを忘れず業務にあたれるように)、医療・介護スタッフの円滑な連携を図るための交流会、医療機関、介護事業所の紹介研修会。
- ・ 医療・介護の研修会を開くことにより、連携できていると思われ、今回の様な研修を続けてほしい。
- ・ 個人病院の医師の話も聞きたいです。
- ・ ご家族と本人の意向が違う場合の事例について。
- ・ 医療職が介護職に聞いてみたいこと。

<相談員>

- ・ 事例報告や色々な施設の取り組みなど知りたい。

<介護職員>

- ・ 認知症利用者の対応やターミナルケア、レクリエーションについて。
- ・ 介護における事例検討。

6. その他、ご意見・ご質問等ございましたらご記入ください。

【医療機関】

<相談員>

- ・ 本日貴重なご講演ありがとうございました。お疲れ様でした。

【介護事業所】

<看護師>

- ・ 場所的に遠かったが、とても良い学習ができて良かったです。

<ケアマネジャー>

- ・ いつもありがとうございます。定期的な研修を行っていただくことで、意識を新たにして業務にあたれています。
- ・ とても勉強になりました。ありがとうございます。
- ・ 稜北病院の取り組みを知れて良かったです。
- ・ 昨年よりわかりやすかったです。

<介護職員>

- ・ 場所がわかりにくかったです。